

マルクス 生きがいとして働く

まずはマルクス*です。名前くらいは聞いたことがあるでしょう。ドイツの哲学者、経済学者で、いわゆるマルクス主義を確立した人物です。あらゆる社会の歴史は階級闘争の歴史であり、その闘争が**資本主義の崩壊と、革命による労働者階級の勝利をもたらす**と主張しました。これがマルクス主義の基本的な思想だと思ってもらえばいいでしょう。

ここで労働者階級の勝利という言葉が出てるように、マルクスは労働者の存在を重視していました。なぜなら、労働によって価値が生み出され、労働によって商品の価値が決まると考えていたからです。これを**労働価値説**といいます。労働価値説自体は必ずしもマルクスのオリジナ

ルではありません。ただ、それを前提に労働が社会の仕組みさえ変え得るところというところまで論じた点がポイントです。

この労働が社会の仕組みさえ変え得るという思想こそ、彼の理想とする**共産主義**にほかなりません。『経済学批判』の中でマルクスは、人間の思想や法、政治の制度などといった「上部構造」は、生産手段や生産活動といった「下部構造」によって決まってくると論じました。つまり経済活動が土台となって、それによってすべての社会制度の中身が決まってくるというわけです。

そして、生産力が生産性の向上によって生産関係にそぐわなくなったとき、その矛盾を原動力として、歴史は次の段階へと進展します。具体的には、原始共産制、奴隷制、封建制、資本主義、社会主義、共産主義と展開していきます。

したがって、**矛盾にあふれた資本主義は革命によって壊され、生産力**



*カール・マルクス
(1818~1883)

ドイツの哲学者・経済学者、資本主義社会について詳細に分析し、1848年に盟友エンゲルスとともに『共産党宣言』を執筆。社会を変革する立場として、労働者階級（プロレタリア階級）を初めて位置づけた。

*資本主義
政治経済における

1つの体制で、産業革命によって確立。生産手段を私有する資本家が、労働者の労働力を使って生産活動を行い、自由な競争のもとに富を蓄積する。

*共産主義
政治経済における1つの体制。私有財産を認めず、財産の一部あるいは全部を共同所有して分け合うのを平等な社会と考える。